第92回薬剤師国家試験は、合格率75.58%（新卒合格率85.60%、その他合格率49.05%）という結果でその幕を閉じた。昨年の74.25%（新卒合格率85.16%、その他合格率38.67%）に比べ、合格率こそ上がってはいるものの、240題になってからの国家試験（第81回国試：平成8年3月から）としては4番目に低い合格率だった。240題になってからの国家試験で合格率が最も低かったのは83回の72.74%で、最も高かったのは90回の84.39%だ。

第92回国試

今年は“前易後難”

今年の国家試験を表す言葉は“前易後難”。「午前中は易しいが、午後は難しい」傾向にあった。受験者が苦手とする基礎薬学、その中でも特に苦手なのが“有機化学”と“物理化学”。この2教科が易しかったことが、92回受験者にとって追い風となったことは間違いないだろう。例年のように「やっぱり基礎ができなかった」と憂鬱な気分で受験するのではなく、「思いのほか基礎ができた」という気持ちで試験に臨むことができたことは、心強かったはず。2日目の午前中にある薬理学も難しい内容とは言えず、好調の波に乗ることができたと思われる。

しかし、午後に関しては“受験者が解きづらい”問題が多かった。「受験者が解きづらい問題＝難しい問題」という式は一概には成り立たない。実際、一見解きづらそうに見えても、内容を把握して考えて解けば、それほど難しくはないといった問題が多かった。しかし“考えて解くことを嫌う昨今の受験者”にとってはどちらも同じことなのだろう。衛生薬学や薬事関係法規・制度といった、いわゆる“受験者がやりやすい教科”が思うようにできなかったという声は多く、それが足かせになったことは想像に難くない。ただし「取れていないと思っていたが、採点をしてみると思いのほかできていた」という受験者の声が多いのも事実だ。

この「試験の手ごたえと得点のズレ」が現れるのは“今までとタイプの異なる問題が出題されたとき”に往々にして見られる現象だ。受験者は、まず間違いなく過去問題を勉強している。ほとんどの学校や予備校業者も、過去問題をベースとして問題を作成・組み立てている。よって受験者は、意識せずとも過去問題をベースとした解法力を養うことになり、国家試験にもそれで臨むことになる。

過去問題をベースとした解法力で、従来とは異なるタイプの問題を解いた場合、今一つ、解法に手ごたえが得られない場合が多い。受験者は「手ごたえがない＝できていない」と捉える傾向にある。実際、今回の衛生薬学では“新傾向といえる問題”や“今までとは異なるタイプの問題”が何題か出題されており、薬事関係法規・制度に関しても同じことが言える。

往々にして、衛生薬学や薬事関係法規・制度に関しては、過去問題をベースに勉強するパターンが多く、中には「過去問題を暗記して終わる」という猛者（？）さえいる。もちろん、過去問題をベースとして勉強することは決して悪いことではない。しかし「過去問題の暗記で乗り切る勉強法」は、国家試験には通用しない。そのような勉強法で取り組んだ受験者にとって、今回の国家試験は、ことさら難しい試験と感じられたはずだ。

薬剤師国家試験がその範囲を広げ、内容も一新された240題となってから、はや10年を超えるが、いまだ80回以前の悪しき国家試験対策が跋扈しているのが現状。曰く「過去問題だけやっていれば大丈夫」「1カ月あれば間に合う」「暗記や語呂合わせだけで対応できる」など、その枚挙にいとまはない。しかし、これは一昔前の、それも誤った国家試験対策。もはや、「過去問題を覚えていれば乗り切れる」「暗記だけで対処できる」といった“国家試験対策における悪しき因習”は捨て去らねばならない。いや、それから抜け出さない限り、国家試験合格への道のりは閉ざされたままであるといっても決して過言ではないだろう。

実際、疾病と治療において、その傾向は顕著なものとなってきている。いまや一昔前の「薬剤師国家試験における疾病と治療の問題」ではなく「疾病というものを理解した上での治療の問題」となっている。今後、疾病と治療の問題対策においては、医師国家試験に準ずる“医学の生きた知識”が要求されることになるだろう。そして、その生きた知識が求められることは、他の科目にも重々言えることだ。事実、「科目分類を飛び越えた問題」が今回の国家試験には多く出題されている。生化学の内容が有機化学として出題されたり、薬理学の範囲で「ベンゼン環の2つの水酸基を水素に置換すると……」などという問題記述が飛び出したりもしている。どの範囲で何が出題されようと「持っている知識を駆使して解答を導き出す」という、生かせる知識が求められているわけだ。

今後の焦点は〝生きた知識〟

〝過去問暗記〟は通用しない

生きた知識として求められているのは、試験を解くための解法力だけではない。「メスカリン様作用を有する錠剤型麻薬として、近年若年層を中心とする乱用が社会問題となっている薬物はどれか」などという、ある意味社会情勢としての常識的な知識も必要とされており、単に国家試験対策として過去問題だけを勉強しているのでは、対応が難しい問題も少なくはない。しかし、これも“過去問題の暗記だけで得られる机上の理論”ではなく、公衆という観点から捉えた場合の医療・薬知識という、やはり“薬剤師になった後に生かしていかなければならない知識”を求めているに過ぎないといえる。

薬剤師は、単に薬剤師国家試験に合格して免許をもらっただけの人間ではない。医療従事者としてはもちろんのこと、たとえ薬剤師として医療現場に立つことはなくとも、一薬剤師として、その言動・考え方をもってして社会に貢献していかなければならない。それが薬剤師免許を持った者の使命であり、責任である。そのためには、幅広い生きた知識が必ず必要になってくる。それを持ち使いこなせる薬剤師こそが、現在の医療現場で求められ、かつ、現在の薬学が目指している薬剤師像であるといっても決して過言ではない。今回の国家試験はもちろんのこと、これからもそのような

募集要項
募集職種：薬剤師資格取得予定者または薬剤師有資格者(修士を含む)
初任給：※平成17年度年収実績365万円以上(大卒)、385万円以上(修士卒)
交通費：全額支給
休　日：4週6休、祝・祭日、特別休暇(年6日)、年末年始(6日)、慶弔、有給休暇(10～20日)
昇　給：年1回　賞　与：年3回(5ヶ月)　その他：各種福利厚生、教育研修、学会発表

薬物療法の安全性と
地域医療の向上のために…

望星薬局

「薬物療法の安全性、有効性を確保するためにその責任の一端を担い、医薬品の適正使用、薬物療法の改善、向上に寄与することにより社会的使命を果たす」ことを企業理念として掲げております。また、常に業界のリーディングカンパニーを目指し、先駆的な役割を担い、最先端の薬局の創造を心がけ、薬局システム、薬剤師の教育、研究などあらゆる面での新しいものへの挑戦を行っております。

望星薬局ネットワーク

●望星薬局　〒259-1143　神奈川県伊勢原市下糟屋96-2　TEL.0463(94)4193
●望星本町薬局　〒259-1131　神奈川県伊勢原市伊勢原3-2-4　TEL.0463(92)1193
●望星沼目薬局　〒259-1132　神奈川県伊勢原市桜台2-16-25　TEL.0463(92)4193
●望星おおね薬局　〒257-0003　神奈川県秦野市南矢名1-2-1　TEL.0463(76)4193
●望星渋沢薬局　〒259-1321　神奈川県秦野市曲松2-1-38　TEL.0463(87)4493
●望星秦野薬局　〒257-0012　神奈川県秦野市立野台1-2-4　TEL.0463(85)1193
●望星大磯薬局　〒259-0114　神奈川県中郡大磯町月京30-18　TEL.0463(71)9341
●望星平塚薬局　〒254-0062　神奈川県平塚市富士見町8-44　TEL.0463(33)1193
●望星鶴見薬局　〒230-0012　神奈川県横浜市鶴見区下末吉3-5-15　TEL.045(570)4193
●望星横浜みどり薬局　〒226-0025　神奈川県横浜市緑区十日市場1726-13　TEL.045(989)4193
●望星築地薬局　〒104-0044　東京都中央区明石町11-15　TEL.03(3541)1193
●望星代々木薬局　〒151-0053　東京都渋谷区代々木1-3-5　TEL.03(3370)1301
●望星西新井薬局　〒123-0841　東京都足立区西新井6-46-16　TEL.03(5691)1193
●望星北浦和薬局　〒330-0074　埼玉県さいたま市浦和区北浦和4-9-9　TEL.048(822)9381
●望星水戸薬局　〒310-0026　茨城県水戸市泉町2-3-2中央ビル6F　TEL.029(222)1193

株式会社 望星薬局
本社：〒259-1132　神奈川県伊勢原市桜台2-1-28
TEL：0463-91-4193　FAX：0463-91-8966
URL：http://www.bohseipharmacy.com
※採用に関するお問合わせ先：人事課／浦本太一郎 E-mail:jinji@bohseipharmacy.com TEL:0463-91-4193